

まちづくり大使の活動がスタート!



過去の自分に打ち勝つために ～市まちづくり大使 眞田 卓氏講演会～

12月16日、車いすテニス選手の眞田卓氏による講演会とテニス教室が、にしなすの運動公園で行われました。リオパラリンピックでダブルス4位に輝いた眞田選手は、「現状に満足せず、常に目標に向かって努力することが大事」と語り、講演を聞く子どもたちの真剣な眼差しが印象的でした。テニス教室では、実際に競技用車いすとボールを使い、眞田選手からアドバイスを受けながら、ラリーに挑戦していました。



野心的に 夢を追いかけよう ～市まちづくり大使 森 詠氏講演会～

12月8日、小説家の森詠氏を講師に迎え、「箒根中全校道徳・家庭教育学級講演会」がハロープラザで催されました。「Be ambitious(野心的であれ)」。そう切り出した森氏が、人生を振り返りながら語ったのは“夢を持つ大切さ”。「本や映画には魅力的な登場人物がたくさん出てくる。“自分もそうになりたい”と憧れを持つことが第一歩。たくさん本を読み、映画を見てほしい」と語り、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



自らの腕を信じ、若い職人たちが競いあう ～とちぎ技能五輪・アビリンピック2017～

11月25・26日の2日間、にしなすの運動公園を会場に“とちぎ技能五輪”が開催され、全国から集まった若い職人たちが腕を競い合いました。当会場では建築大工、タイル張り、造園、とびの4種目が行われ、市内からは那須清峰高校の成宮さん、村上さんが建築大工の競技に参加。先月の取材では“制限時間内の作品完成が目標”と自信なさげに語っていた2人でしたが、結果は見事に目標達成。「練習の成果を全て出せました」と安堵の表情で語ってくれました。



↑12時間に及ぶ競技時間にも関わらず、一切集中を切らすことなく課題に取り組む2人(左:成宮さん、右:村上さん)



指の絆創膏がこれまでの練習の厳しさを物語る ↓北海道から沖縄まで若手職人95人が競い合った



優しい灯りが照らす 変わりゆく駅前 ～黒磯駅前キャンドルナイト～

交流センターや図書館など新しい施設の建設が予定されている黒磯駅前にて、12月9日、第21回となる黒磯駅前キャンドルナイトが開催されました。地元の小学校や中学校、高校の子どもたちが運営に参加したり、企業が自作のキャンドルを展示したりと、地域ぐるみとなっている当イベント。風がほとんどなく、いつもより緩やかにきらめくキャンドルの灯りを、多くの家族連れが思い思いに楽しんでいました。



竹が割れるまで叩きつける ～嶽山箒根神社梵天上げ～

11月23日、市の無形民俗文化財に指定されている嶽山箒根神社梵天上げが宇都野地区で開催されました。五穀豊穡を願って毎年この日に開催され、宇都野地区や金沢地区などから6本の梵天が奉納されます。あいにく小雨が降る日でしたが、6～7mの竹の先端にシデと呼ばれる和紙を取り付けた梵天が地面に叩きつけられながら参道を練り歩くと、観客から盛大な歓声が上がりました。



万が一に備えて ～関谷下田野地区防災訓練～

11月27日、関谷下田野地区自主防災連絡会が関谷小学校で合同防災訓練を実施しました。当日は同地区のコミュニティ祭りも開催され、多くの方が会場を訪れました。会場では炊き出し訓練の他に、簡易担架の作成や心肺蘇生法、AEDや消火器の使い方について訓練を実施。西那須野消防署塩原分署の職員から指導を受けながら、参加した人たちは緊張した面持ちで訓練を体験し、万が一の事態に備えていました。



芸術の秋の終わりに 心地よい音色を ～西那須野産業文化祭・音楽祭～

今回で第62回目を迎えた“西那須野産業文化祭・音楽祭”が11月26日に三島ホールで開催されました。オープニングを飾ったのは大山小学校音楽部の子どもたち。今月3日の日本管楽合奏コンテストで最優秀賞を獲得した実力どおり、とても小学生とは思えない圧巻の演奏に会場は大盛り上がり。その後の市内の音楽愛好者によるオカリナやハーモニカなどの優しい音色に、会場を訪れた約400人の観客は穏やかに耳を傾けていました。